

令和8年3月23日

報道関係者 各位

【照会先】

健康・生活衛生局

感染症対策部感染症対策課

エイズ/結核対策推進室長 小谷 聡司 (2373)

(電話・代表) 03(5253)1111

「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2025」を公表します

このたび、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2025」を取りまとめましたので、公表します。

抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな問題となっています。この薬剤耐性 (Antimicrobial resistance: AMR) 問題に対応するためには、ヒト、動物、食品及び環境といった各分野横断的な対応 (「ワンヘルス・アプローチ」) が重要であると、国際的にも認識されています。

我が国においても、薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの中で、ヒト、動物、食品及び環境等から分離される薬剤耐性菌の分離率や抗微生物剤の使用量 (又は販売量) 等に関する、統合的なワンヘルス動向調査を毎年実施することが掲げられ、AMRの現状を把握し、課題を抽出し、適切な施策を進めることが重要とされています。厚生労働省としても、こうした問題意識の下、毎年、専門家や関係府省庁担当者によって構成された薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会を開催しています。

本報告書では、検討会での議論を踏まえ、新たに2024年までの動向をとりまとめました。概要は以下のとおりです。

【薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2025 の概要】

- (1) 「AMR 対策アクションプラン (2023-2027)」の成果指標について、ヒト (2024 年まで) 及び動物分野 (2023 年まで) における推移をとりまとめた。
- (2) 日本のヒト、動物、食品及び環境分野から分離された特定の微生物の各種抗菌薬に対する耐性率等について、推移をとりまとめた。
- (3) 日本のヒト用抗菌薬および動物用医薬品、抗菌性飼料添加物、農薬等の使用量等について、推移をとりまとめた。
- (4) 病院における感染診療・感染対策・疾病負荷に関する状況等をとりまとめた。
- (5) 日本の一般国民や医療関係者等における薬剤耐性に関する意識調査結果をとりまとめた。

※ また、薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2025 の中から注目すべきデータを抜粋し、グラフや図を中心にまとめたサマリ版を併せて公表した。

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2025 サマリ版 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001675597.pdf>